

注意事項

1. 試験問題の数は55問で解答時間は正味1時間20分である。

2. 解答方法は次のとおりである。

(1) (例1)、(例2)及び(例3)の問題では1から4までの4つの選択肢、もしくは1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)、(例2)では1つ、(例3)では2つ選び答案用紙に記入すること。

なお、(例1)、(例2)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例3)の質問には、1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
				↓
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	③
④	●

- 1 乳幼児の予防接種で正しいのはどれか。
 1. 接種の開始は生後2か月が推奨される。
 2. 定期接種、任意接種ともに就学前に完了する。
 3. 同時接種とは複数のワクチンを混合して接種することである。
 4. 生ワクチン接種から6日以上あけて次の生ワクチン接種が可能となる。

- 2 20歳代女性を対象とした妊娠前の栄養と食生活に関する情報提供で適切なものはどれか。
 1. 炭水化物の摂取を制限する。
 2. 野菜は200g/日の摂取を目標とする。
 3. カルシウム摂取量は約660mg/日を推奨量とする。
 4. 蛋白質は総エネルギー摂取量の30%以上を目標とする。

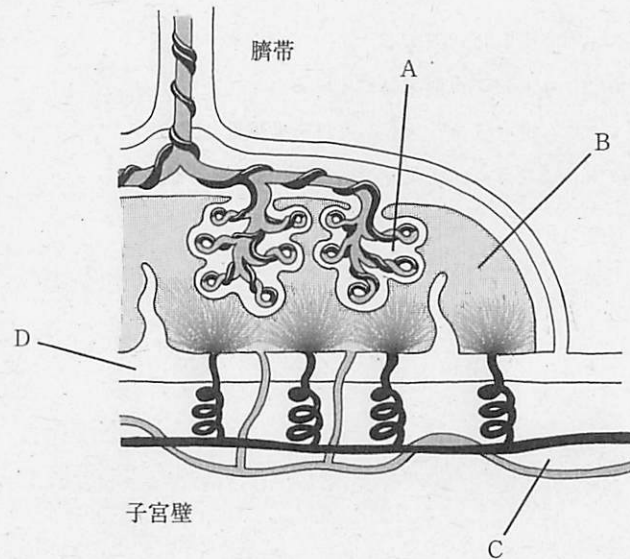
- 3 日本人女性の乳癌のリスク要因はどれか。
 1. やせ
 2. 遅い初経
 3. 授乳経験
 4. アルコール摂取

- 4 淋菌感染症について正しいのはどれか。
 1. 多剤耐性淋菌の発生は減少傾向である。
 2. 性器感染者の0.1%に咽頭感染を認める。
 3. 女性感染者の子宮頸管炎の帯下は水様透明である。
 4. 男性感染者の尿道炎では灼熱感のある排尿痛が出現する。

5 非侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)で適切なのはどれか。

1. 母体血清マーカー検査と比べ感度が低い。
2. 胎児疾患の確定診断を目的に行う。
3. 13トリソミーは対象疾患である。
4. 羊水を採取する。

6 胎盤の断面を図に示す。



絨毛間腔を示す場所はどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D

7 乳児が身体の傍にあるおもちゃを認識し、手を伸ばしてつかむことができるようになる時期はどれか。

1. 生後1か月ころ
2. 生後2か月ころ
3. 生後3か月ころ
4. 生後6か月ころ

8 生後6か月の女児。これまで健康で、身体発育、精神運動発達に問題は指摘されていない。

児の食事の内容で適切なのはどれか。

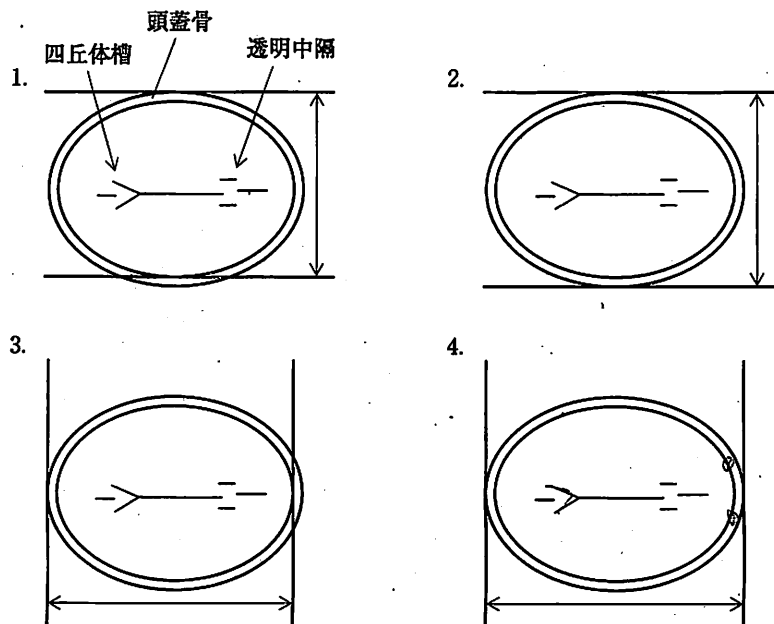
1. 軟飯
2. はちみつ
3. つぶした豆腐
4. フォローアップミルク

9 Aさん(47歳、女性)は市町村の子宮がん検診の結果から精密検査を勧められ、産婦人科外来を受診した。持参した子宮頸部細胞診の結果はLSIL(軽度扁平上皮内病変)であった。

Aさんに必要な検査はどれか。

1. 膀胱鏡
2. 骨盤MRI検査
3. コルポスコピー
4. 子宮内膜細胞診

- 10 妊娠中期以降の超音波検査による児頭大横径(BPD)の計測断面を図に示す。
測定位置で正しいのはどれか。



- 11 Aさん(38歳、初産婦)は妊娠39週6日に経膈分娩に至り、胎盤が娩出された直後から強い下腹部痛と多量の出血を認めた。腹部で子宮底を触れず、膈内に超手拳大の腫瘤を触れる。

このときの診断で正しいのはどれか。

1. 頸管裂傷
2. 弛緩出血
3. 子宮内反
4. 癒着胎盤

- 12 Aさん(28週、初妊婦)の推定胎児体重は930g(-1.5SD)であり、超音波検査とノンストレステスト(NST)が実施された。胎児異常はない。Biophysical Profile Score(BPS)は10点であった。

Aさんへの対応で必要なのはどれか。

1. 経過観察
2. 酸素投与
3. 葉酸投与
4. 羊水検査

- 13 Aさん(36歳、2回経産婦)は産後1か月。身長160cm、体重53kgで、非妊時に戻っている。母乳のみで授乳している。現在のAさんの平均摂取カロリー量は2,000kcal/日である。

授乳期に推奨される1日当たりの摂取カロリー量にするために、Aさんが増量する必要があるカロリー量に近いのはどれか。

1. 100kcal
2. 200kcal
3. 400kcal
4. 600kcal

14 乳癌の診断を受けた完全母乳栄養で育児中の母親に対する授乳指導で正しいのはどれか。

1. 内分泌療法中でも授乳が可能である。
2. 授乳を継続することで乳癌の進展が抑えられる。
3. 治療中は授乳を中止すれば体力の消耗が抑えられる。
4. 放射線照射後でも健側の乳房からは授乳が可能である。

15 Aさん(35歳、1回経産婦)は、妊娠26週2日。75gOGTTで、空腹時血糖90mg/dL、1時間値190mg/dL、2時間値150mg/dLであった。Aさんに、医師から妊娠糖尿病について説明された。

Aさんへの指導で正しいのはどれか。

1. 運動を控える。
2. 食事内容を記録する。
3. 経口糖尿病薬を内服する。
4. 食事から摂取するエネルギーは非妊時から50kcal/日増やす。

16 正常新生児の出生後の対応で正しいのはどれか。

1. 母親のケア後にその新生児のケアをする場合は手袋を交換する必要はない。
2. 四肢末梢にチアノーゼを認めた場合は酸素投与を行う。
3. 母親の名前を書いた標識を2つ装着する。
4. 点眼の前後には眼瞼を清拭する。

17 Aさん(32歳、初産婦)は、双胎妊娠で、妊娠38週1日に帝王切開術で出産した。両児とも男児で、第1子2,590g、第2子2,670gで、出生後の経過は良好である。

産褥6日、Aさんの乳汁分泌量は増えてきており、両児に直接授乳している。「退院後は夫と2人で育児をする予定ですが、育児に自信がありません」と助産師に話した。

Aさんへの退院支援で正しいのはどれか。

1. 児は1人ずつ順番に退院する。
2. 人工乳に変更することを勧める。
3. 児それぞれの授乳のリズムに合わせた授乳を勧める。
4. 入院中に夫がAさんとともに両児の育児を経験できるようにする。

18 在胎38週5日に経膈分娩で出生した児。羊水混濁は認めなかった。Apgar(アプガー)スコア1分後8点、5分後8点であった。新生児蘇生中にフリーフロー酸素投与が行われても酸素化が改善せず、中心性チアノーゼと聴診で心雑音を認め、先天性心疾患を疑われ生後1時間でNICUに入院した。なお、経過中に呻吟や陥没呼吸は認めなかった。

入院直後の処置で正しいのはどれか。

1. 腹臥位にする。
2. 気管内吸引を行う。
3. 背部をこすって呼吸刺激を行う。
4. 経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)モニターを右上肢と下肢に装着する。

19 生後6か月の乳児の就寝環境で適切なのはどれか。

1. 大人と一緒に同じベッドで就寝する。
2. 児の好きなぬいぐるみをベッド内に置く。
3. マットレスと壁の間に隙間がないようにする。
4. 乳汁の嘔吐があったときのためにタオルを児の口元に置く。

20 未熟児網膜症の発症のリスク因子となるのはどれか。

1. 多血
2. 低酸素症
3. 低カルシウム血症
4. ステロイド薬の投与

21 低所得のひとり親世帯の生活の安定と自立の促進を目的とした手当はどれか。

1. 児童手当
2. 出産手当金
3. 児童扶養手当
4. 特別児童扶養手当

22 セルフヘルプグループの活動はどれか。

1. 祖父母を対象とした孫育て講演会
2. 双子の両親が主催する多胎家族の交流会
3. 助産師によるベビーマッサージの体験教室
4. 出産経験者が体験を語る動画を使った出産準備教室

23 助産所の開設で正しいのはどれか。

1. 管理者は助産師に限定されない。
2. 無床の助産所の場合は開設届は不要である。
3. 出張のみで助産に従事する場合でも嘱託医師を定めなければならない。
4. 助産師が開設する場合は事前に都道府県知事に届け出なければならない。

24 産後ケア事業について正しいのはどれか。

1. 児が単独で利用できる。
2. 短期入所してケアが受けられる。
3. ケアを提供する施設には医師と助産師の配置が必要である。
4. 事業を利用できるのは出産後1年6か月までの女性と乳幼児である。

25 周産期医療における地域連携で正しいのはどれか。

1. セミオープンシステムは病院と診療所の産後の連携システムである。
2. 地域災害拠点病院であることが周産期母子医療センターの要件になる。
3. 総合周産期母子医療センターは地域で分娩を扱う全ての医療施設と連携している。
4. 母体救命が必要な妊産婦は地域周産期母子医療センターで受け入れが義務付けられている。

26 産褥期のホルモンの変動で正しいのはどれか。

1. 授乳婦はゴナドトロピン放出ホルモン(GnRH)の分泌が亢進する。
2. オキシトシンは授乳開始から30分後に血中濃度が上昇する。
3. 授乳回数が多いほどプロラクチンの血中濃度が上昇する。
4. 新生児との接触でプロゲステロンが上昇する。
5. エストロゲンは乳汁産生を促進する。

27 褥婦に対するうっ滞性乳腺炎の説明で正しいのはどれか。

1. 産後5日ころに起こりやすい。
2. 乳房の張りが少ない方から授乳する。
3. 乳房に疼痛があれば授乳の間隔をあける。
4. うっ滞性乳腺炎になっても、授乳は可能である。
5. 乳汁が溜まっているようであれば、自己マッサージをしない。

28 母子健康手帳の交付で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 出生後でも交付される。
2. 妊娠の診断書が必要である。
3. 妊娠12週以前は交付されない。
4. 在留資格に関係なく交付される。
5. 妊婦の代理人に対しては交付されない。

29 膣分泌物の鏡検によって診断できる病原体はどれか。2つ選べ。

1. 淋菌
2. カンジダ
3. クラミジア
4. トリコモナス
5. 梅毒トレポネーマ

30 子宮について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 子宮筋層は横紋筋である。
2. 子宮動脈は上行枝と下行枝に分かれる。
3. 子宮動脈は外腸骨動脈から分岐している。
4. 子宮を支持する組織として広間膜がある。
5. 初経の発来前後で子宮体部の大きさは同じである。

31 妊娠中期に発症した妊娠糖尿病で母体の血糖値の管理が不十分である場合、妊娠後期に生じやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 胎児構造異常
2. 前置胎盤
3. 羊水過多
4. 過期産
5. 巨大児

32 リトドリン塩酸塩の使用時に注意する母体の副作用はどれか。2つ選べ。

1. 嗜眠
2. 高血糖
3. 肺水腫
4. 呼吸抑制
5. 腱反射低下

33 Aさん(34歳、初産婦)は妊娠35週3日に妊婦健康診査のため来院した。外来待合室で意識を消失し、心肺停止状態となった。

このときの対応で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 左側臥位にする。
2. 帝王切開の準備をする。
3. 胸骨圧迫を80回/分で行う。
4. 胸骨下半分で胸骨圧迫を行う。
5. 胸骨圧迫と人工呼吸を10:2の割合で行う。

34 初診時の感染症スクリーニング検査で風疹抗体HI抗体価が256倍の妊婦へのその後の対応で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. アジスロマイシンの内服治療を行う。
2. 同居家族へのワクチン接種を勧める。
3. 羊水検査で胎児の感染を確認する。
4. 風疹抗体HI抗体価を再検査する。
5. 風疹IgM抗体価を検査する。

35 助産師が死産児を検査して異常があると認めた場合の届出で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 48時間以内に届け出なければならないと規定されている。
2. 妊娠4か月の死産児は対象となる。
3. 医療法に定められている。
4. 届出は義務である。
5. 保健所に届け出る。

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

A さん(35 歳、初産婦)は身長 160 cm、体重 62 kg(非妊時 52 kg)である。妊娠経過は順調であり、無痛分娩を希望している。妊娠 38 週 0 日から、夜間に不規則な陣痛が始まり朝になると消失することを繰り返していた。妊娠 38 週 5 日、4 時間前から陣痛間欠時間 7 分、陣痛持続時間 40 秒の有痛性の子宮収縮が認められ入院した。入院時の内診所見は、子宮口 3 cm 開大、展退度 70 %、Station -1 である。「最近はや夜あまり眠れていないし、疲れて食欲もない」と話す。

36 このときの診断で適切なものはどれか。

1. 遷延分娩である。
2. 過強陣痛である。
3. 分娩は開始していない。
4. 分娩第 1 期の潜伏期である。
5. 分娩第 1 期の活動期である。

37 入院から 2 時間経過した。A さんの痛みが増強したため、硬膜外麻酔による鎮痛を開始した。内診所見は、子宮口 4 cm 開大、展退度 80 %、Station -1 である。

このときの助産師の対応で適切なものはどれか。

1. 食事摂取を促す。
2. 定期的に導尿を行う。
3. 仰臥位で過ごすよう説明する。
4. 15 分間隔で見心音を聴取する。

38 A さんは麻酔開始から痛みをほとんど感じない状態で経過していたが、8 時間後に痛みが増強したため助産師は内診した。内診所見は、子宮口全開大、Station +3、矢状縫合は横径に一致しており、小泉門は 3 時方向に触れる。

このときのアセスメントで正しいのはどれか。

1. 児頭の回旋は正常である。
2. 第 1 回旋の異常がある。
3. 第 2 回旋の異常がある。
4. 第 3 回旋の異常がある。
5. 第 4 回旋の異常がある。

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

A 助産所では、妊婦健康診査で通院している妊婦のパートナーを対象に「パパクラス」を開催することになった。内容を検討するため、事前に参加希望者に「パパクラス」への受講理由を確認した。受講理由には「妻から沐浴して欲しいと言われているが、具体的な方法が分からない」、「赤ちゃんを触ったことがないので、お風呂で動かれた時にどうしたらよいか分からない」があった。

そこで、「パパクラス」は、参加者に沐浴を体験してもらうことを目的とした。助産師が沐浴のデモンストレーションを行い、参加者に体験してもらうことを計画した。

39 参加者に沐浴体験前に実施してもらう育児技術で最も適切なのはどれか。

1. 着替え
2. 抱っこ
3. 体温測定
4. オムツ交換

40 参加者は「パパクラス」で沐浴を体験した。その後、助産師がファシリテーターとなり参加者同士で話し合う時間を設けた。参加者のBさんから「このクラスに参加して、子どもが生まれたら沐浴できたらいいなと思いました。でも、遅い時間まで仕事をしているので難しいかな」と発言があった。

このときの助産師のファシリテーションで適切なのはどれか。

1. Bさんに詳しく勤務状況を尋ねる。
2. 参加者に子育てが優先されると伝える。
3. Bさんに沐浴以外の育児をするように提案する。
4. Bさんの発言について参加者が意見交換できるように促す。

41 クラス終了後、参加者から「沐浴以外にもっと育児のことが知りたい」、「実際に子どもがいる生活はどのような感じになるのか知りたい」という意見が寄せられた。そこで、このクラスの参加者を対象に次のクラスを開催することにした。次のクラスでは、ピア・エデュケーションの方法を取り入れることにした。

次のクラスの講師で最も適切なのはどれか。

1. 保育士
2. 小児科医
3. 子育て中の父親
4. 母子保健推進員

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

A さん(37 歳、2 回経産婦)はこれまでの出産はいずれも正常分娩であった。診療所に通院し、今回の妊娠経過中に異常の指摘はなかった。妊娠 40 週 5 日、前期破水で入院した。午前 8 時には、第 2 頭位で内診所見は子宮口 3 cm 開大、展退度 50%、Station ±0、子宮頸管の硬度は軟、子宮口の位置は後方であった。

42 午前 10 時、自然に陣痛が発来し、正午での陣痛間欠は 5 分、陣痛発作 40 秒であった。内診所見は、子宮口 7 cm 開大、展退度 80%、Station +1、子宮頸管の硬度は軟、子宮口の位置は中で、発作時には 1 時方向に先進した大泉門が Station +2 で触れる。

このときのアセスメントで正しいのはどれか。

1. 正常経過
2. 微弱陣痛
3. 高在縦定位
4. 前方前頭位
5. 低在横定位

43 13 時に子宮口が全開大した。小泉門が先進して 0 時方向に触知し、その上方には恥骨結合後面が 1/2 触れる。やや大きく産瘤が触知するが発作時には Station +2 まで児頭が触れる。陣痛発作のたびに最下点 90 bpm 前後の変動一過性徐脈がみられているが、間欠時には回復している。助産師は吸引分娩となる可能性を考え、準備を始めた。

このときの児頭最大径が位置すると考えられる骨盤の位置はどれか。

1. 入口部
2. 濶部
3. 峽部
4. 出口部

44 分娩第 2 期遅延、分娩停止のため吸引分娩が施行され、4 回目の吸引によって、3,880 g の男児が娩出された。羊水は泥状であったが、出生直後から啼泣があり、Apgar (アプガー) スコアは 1 分後 7 点(皮膚色 -2 点、筋緊張 -1 点)、5 分後 8 点(皮膚色 -1 点、筋緊張 -1 点)、臍帯動脈血 pH 7.20 であった。クベースに収容して経過観察していたところ、出生 2 時間後から頭部の腫瘤が増大してきた。暗赤色で骨縫合を超えており、指で押すと陥凹する。体温 37.0℃、呼吸数 70/分、心拍数 170/分で鼻翼呼吸がみられる。

新生児への対応で予測されるのはどれか。2 つ選べ。

1. 光線療法
2. 腫瘤の穿刺
3. 脳低温療法
4. 静脈路の確保
5. NICU への搬送

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

A さん(40 歳、初産婦)は身長 158 cm、非妊時体重 53 kg。自宅近くの B 診療所で妊婦健康診査を受けていたが、妊娠を機に仕事を辞め、妊娠 13 週のときに実家近くへ転居した。妊娠 18 週 0 日、今後の妊娠・分娩管理を希望して C 病院を受診した。A さんは「引っ越してバタバタしていましたが、今はゆっくり片付けをしています」と話した。

母子健康手帳の記載内容を以下に示す。

診察 月日	妊娠 週数-日	子宮 底長	腹囲	体重	血圧	浮腫	尿蛋白	尿糖	その他の 検査 (血液検査、血糖、 超音波など)	特記事項 (安静・体重などの 指示や切迫早 産等の産科疾患 や合併症など)	施設名 又は 担当者名
4/29	12-0	12 cm	68 cm	55.0 kg	102/56	⊖+ #	⊖+ #	⊖+ #	感染症一式 Hb 12.3 g/dL		B 診療所
6/10	18-0	15 cm	69 cm	56.0 kg	105/75	⊖+ #	⊖+ #	⊖+ #	随時血糖 90 mg/dL		C 病院

45 このときの助産師の説明で優先度が高いのはどれか。

1. 妊婦健康診査の受診頻度
2. 貧血を予防するための食事内容
3. 妊娠高血圧症候群を予防する生活
4. 引っ越しの片付け作業で留意すべき内容

46 妊娠 28 週 0 日、A さんは「引っ越し後の片付けをしたりしていて、胎動は気にしていなかった」と話した。超音波検査では胎動あり、推定胎児体重は 1,250 g であった。

妊娠 22 週 0 日から妊娠 28 週 0 日の母子健康手帳の記載内容を以下に示す。

診察 月日	妊娠 週数-日	子宮 底長	腹囲	体重	血圧	浮腫	尿蛋白	尿糖	その他の 検査 (血液検査、血糖、 超音波など)	特記事項 (安静・体重などの 指示や切迫早 産等の産科疾患 や合併症など)	施設名 又は 担当者名
7/8	22-0	19 cm	70 cm	58.0 kg	110/70	⊖+ #	⊖+ #	⊖+ #			C 病院
7/22	24-0	22 cm	73 cm	59.0 kg	120/70	⊖+ #	⊖+ #	⊖+ #			C 病院
8/5	26-0	24 cm	74 cm	63.0 kg	125/85	⊖+ #	⊖+ #	⊖+ #	50 gGCT 120 mg/dL		C 病院
8/19	28-0	26 cm	76 cm	63.0 kg	124/65	⊖+ #	⊖+ #	⊖+ #	BPD 70 mm		C 病院

妊娠 28 週 0 日までの A さんと胎児のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 正常経過である。
2. 妊娠糖尿病である。
3. 胎児発育不全である。
4. 妊娠高血圧腎症である。

47 妊娠 32 週 0 日、A さんは「時々お腹が張るような感じがありますが休むと治まります。甘いものが食べたくなくなります」と話した。

妊娠 30 週 0 日と妊娠 32 週 0 日の母子健康手帳の記載内容を以下に示す。

診察 月日	妊娠 週数-日	子宮 底長	腹囲	体重	血圧	浮腫	尿蛋白	尿糖	その他の 検査 (血液検査、血糖、 超音波など)	特記事項 (安静・体重などの 指示や切迫早 産等の産科疾患 や合併症など)	施設名 又は 担当者名
9/2	30-0	26 cm	77 cm	63.0 kg	130/70	⊖+ #	⊖+ #	⊖+ #			C 病院
9/16	32-0	27 cm	78 cm	63.5 kg	124/62	⊖+ #	⊖+ #	⊖+ #			C 病院

妊娠 32 週 0 日に実施が必要な検査項目はどれか。

1. 75 gOGTT
2. 子宮頸部細胞診
3. 尿蛋白/クレアチニン比
4. B 群溶血性連鎖球菌(GBS)感染症

次の文を読み 48～50 の問いに答えよ。

A さん(21 歳、大学生、未婚)は腹痛を主訴に救急外来を受診した。A さんの意識は清明で、体温 38.0℃、脈拍 85/分、整、血圧 118/78 mmHg であった。診察の結果、A さんは陣痛発来しており、内診所見では既に破水しており、子宮口全開大、Station +2 であった。児は頭位で推定体重は 3,000 g。A さんは 1 人暮らしで、特定のパートナーはおらず妊娠の自覚もなく、1 年以上病院への受診歴はない。HIV 抗体陰性、HBs 抗原陰性、HCV 抗体陽性、梅毒スクリーニング検査陰性、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)PCR 検査陰性、胸部エックス線写真で肺野に異常陰影は認められない。

48 出生後の児への母子感染予防対策で適切なのはどれか。

1. ワクチンの接種
2. 抗ウイルス薬の内服
3. 早期母子接触の中止
4. 特異的ヒト免疫グロブリン製剤の筋肉内注射
5. A さんの乳頭から出血している場合の授乳中止

49 A さんは男児を出産した。出生体重 3,150 g、Apgar(アプガー)スコア 1 分後 8 点、5 分後 9 点。Dubowitz 法による新生児成熟度評価で在胎週数は 39 週 3 日だった。

日齢 3、A さんから「この子はかわいいけど私が育てられるとは思えない。夜も 1 回 1 時間も寝ないですぐに泣き、授乳時も 30 分以上おっぱいを吸っていて、時間がかかり大変だ」という訴えが聞かれた。この日の児の体重は 2,770 g(前日比 -70 g)、活気はあり、吸嚙はしっかりしている。昨日の排尿回数は 3 回、排便回数は 2 回であった。

A さんと児への支援で最も適切なのはどれか。

1. おしゃぶりの使用を勧める。
2. しばらく母子分離を勧める。
3. 母乳栄養を中止することを勧める。
4. 母乳を搾乳して与えることを勧める。
5. 母乳哺乳後に人工乳を追加することを勧める。

50 A さんは実家で家族の支援を受けて子育てをすることになり、母子は日齢 7 に退院した。退院後 3 日の夜、産科病棟に A さんから電話があり、児の臍が取れた後、浸出液が認められると相談があった。A さんは、児の臍は湿潤しており、淡黄色の浸出液が少量認められるが悪臭はなく、臍周囲の発赤・腫脹も臍出血も認めず、発熱もなく元気で哺乳も良好であると話した。

助産師の説明で適切なのはどれか。

1. 「しばらく沐浴を中止してください」
2. 「ポビドンヨードで臍を毎日消毒してください」
3. 「臍が蒸れないようオムツの外に出してください」
4. 「今すぐに家の近くの病院の救急外来を受診してください」

次の文を読み 51～53 の問いに答えよ。

A さん(19 歳、初妊婦、派遣労働者)は夫(24 歳、無職)と 2 人暮らし。A さんは妊娠 8 週 3 日で妊娠の届出のために市役所に来所した。昨年の世帯収入は 250 万円であった。A さんは市の助産師に「夫は前の職場で人間関係がうまくいかず、うつ状態になり、今も仕事をしていません。これまでは私の収入で生活できていましたが、両親とは疎遠でこれからかかるお金のことが心配です」と話した。

51 このときの助産師の説明で適切なのはどれか。

1. 「派遣労働者の場合、出産育児一時金の支給はありません」
2. 「分娩時に出産費用を助成する出産扶助が支給されます」
3. 「パートナーに働くようにお願いしてみましょう」
4. 「14 回分の妊婦健康診査の費用が助成されます」

52 妊娠 32 週の妊婦健康診査で血圧 140/88 mmHg、尿蛋白(一)。児は骨盤位で、推定胎児体重 1,520 g、医師から自宅安静を指示され休暇を取っていた。妊娠 33 週で血圧 156/92 mmHg、尿蛋白(+)、推定胎児体重 1,600 g であり医師から入院を勧められた。産科外来の助産師が入院の説明をしていると、A さんは「入院の必要性は分かるけれど、入院費が支払えるかどうか心配です」と話した。市の母子保健担当に相談したところ、療養援護の助成で医療費が一部支給されることになった。

A さんが療養援護の助成を受けられる低所得以外の理由はどれか。

1. 妊娠高血圧症候群
2. 若年妊婦
3. 初妊婦
4. 骨盤位

53 A さんは妊娠 37 週、2,420 g の女児を正常分娩で出産した。産後の血圧は安定していたため、産後 5 日に退院し、児は日齢 14 に 2,560 g で退院した。産後 2 週の産婦健康診査でエジンバラ産後うつ病質問紙票(EPDS)が 10 点だったと病院から市に連絡があったため、産後 20 日に市から委託を受けた助産師が訪問した。児は体重 2,740 g で健康状態は良好であった。A さんは「夫と一緒に育児をしていますもうまくできません。不安が大きいですし、睡眠不足でとても疲れています」と泣きそうな表情で話した。

助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 子育て中の母親との交流を勧める。
2. 両親に支援を依頼するように勧める。
3. ファミリーサポートセンターを紹介する。
4. 要支援児童等と思われる者であることを市に情報提供する。

次の文を読み 54、55 の問いに答えよ。

A さん(40 歳、1 回経産婦)は、前回の妊娠で妊娠高血圧腎症を発症し、妊娠 38 週 3 日に 2,350 g の男児を帝王切開で出産している。自宅で妊娠反応が陽性となったため産婦人科病院を受診し、妊娠 9 週 0 日と診断された。医師の診察の後、A さんは助産師に「1 人目は帝王切開で出産しましたが、私は経膈分娩ができるのでしょうか」と相談した。

54 回答のために確認すべき情報はどれか。

1. 血圧値
2. 流産手術の既往
3. 子宮筋腫の手術の既往
4. 帝王切開から妊娠までの期間

55 初回受診時の血液検査の結果は、トキソプラズマ IgG 抗体陰性であった。

A さんへの指導内容で正しいのはどれか。

1. 性交渉は控える。
2. 生魚は食べない。
3. 生野菜は食べない。
4. ガーデニングの際は手袋をする。